令和5年度 えりも高校 第1回授業評価アンケート結果分析

アンケート実施期間：6月8日～6月16日

質問項目（各教科・科目共通）

先生に関する項目	①	授業の目標・課題設定がわかりやすい。
	②	板書やプリント・PCの文字、先生の説明・指示や声量・話す速度などがわかりやすく、整理されている。
	③	授業の内容や難易度は自分に合っている。
	④	ペアワークやグループワークなど対話的活動により、自分で考えたり発表したりできるような授業である。
	⑤	どのように評価されるか説明している。
	⑥	内容や疑問点について振り返る時間があり、伝えやすい。
生徒自身に関する項目	⑦	話を聞く姿勢を取るなど、ふさわしい態度で学習している。
	⑧	授業に積極的・主体的に参加している。
	⑨	分かりやすく発表したりまとめたりすることができている。
	⑩	この授業を通して、その科目に関する考え方が深まった。
	⑪	この授業を通して、知識や技能の向上を実感している。
授業についての記述欄		授業に関して特に学びを得たと思うことを記入してください。
		授業に要望があれば記入してください。

○生徒の評価

4～1の段階で評価する。

4	そう思う。
3	どちらかというと思う。
2	どちらかというと思わない。
1	思わない。

○評価の段階

生徒の評価の平均を以下の評価とする。

3.5以上	A評価
3.0以上	B評価
2.5以上	C評価
2.5未満	D評価

教科（国語科）

①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）

単元の計画や目標を生徒に提示し、見通しを持たせていることが高評価に繋がった。口頭だけの説明だけで終わらない視覚的な説明などのユニバーサルデザインの視点での授業づくりは今後も続けていきたい。

②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）

⑨「分かりやすく発表したりまとめたりすることができている」の項目が全学年低い。まとめたり発表したりといったアウトプットの時間を系統的に続けていき、徐々にステップアップしていけるような指導をしていきたい。

③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

互いの授業を見て、授業法の研鑽を重ねる。

教科（地歴公民科）	
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）	<p>課題の設定など、学習への見通しを持たせることができたことが評価の高い項目であったと感じる。</p> <p>板書など学習内容の整理の工夫を教科内で行ったことが、「板書やプリント・PCの文字、先生の説明・指示や声量・話す速度などがわかりやすく、整理されている。」の項目で高い評価であったと思われる。</p>
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）	<p>グループワークなどの機会の設定が課題である。目標に正対した適切な学習活動の設定について考えていきたい。</p> <p>低学年ほど、授業の難易度が自身にあっていないという結果が出ている。高校の学習内容と自身の生活を結びつけるなどの工夫が求められる。</p>
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動	<p>基礎基本の徹底を図り、生徒が「できる」「わかった」といった実感を与え、さらに学習への前向きな取組を促したい。</p>

教科（数学科）	
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）	<p>どの学年についても「どのように評価されているか説明している。」の項目が特に高かった。家庭学習の推進やモチベーションの向上につながっているため、今後も継続していきたい。</p>
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）	<p>「分かりやすく発表したりまとめたりすることができている。」の項目の評価が低かった。しかし数学科として、互いに学び合う機会を積極的に設けることを優先して指導を行っているため、「授業に積極的・主体的に参加している。」の項目が低くはならなかったと考えている。知識の定着のためのアウトプットの機会の1つとして、発表する場面を設けるよう努めたい。</p> <p>また数学科では習熟度別展開を生徒の希望制としているが「授業の内容や難易度は自分に合っている。」の項目は低い傾向にある。</p>
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動	

教科（理科）	
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）	<p>3学年は例年同様、全般的に評価が高く、モチベーションもあると思われる。今後も進路に向けて生徒の意欲を高める授業を心掛けたい。</p>
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）	<p>1学年、2学年は難易度を高く感じている生徒が多い。特に2学年では難易度の上昇が要因となり、すべての評価が低い傾向がある。つまづきをフォローしながら、実験・観察を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動	<p>実験を行っていくことはもちろんのこと、実験を通して探究し、課題解決ができる授業を目指す。</p>

教科（保健体育科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
<p>1・3学年で①目標、②説明内容、⑤評価については特に高い評価を得ている。日頃から学習カードを用いるようにしていること、ホワイトボード等を活用しながら目標や授業内容、まとめ等を掲示していることが高い評価に繋がっていると考えられる。</p> <p>1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワークなども可能な範囲で今後も継続していきたい。 <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己を振り返ることができるように評価の観点も適宜提示していく。 <p>3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的活動の中で、個々の目標をしっかりと持たせたい。
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
<p>全学年、⑨発表については低く出ている。対話的活動を取り入れているものの、成果としてまだ実感できていないと思われる。3学年では自分たちで活動を計画しながら進めていく学習活動が主となるため、2学年後半から学んだ内容を相手に伝えるための活動を行っている。その活動と成果を感じるのはいずれかと期待したい。</p> <p>また、2学年については全体的に他学年と比べて低い数値となっている。学習の姿勢や運動能力が全体的に高く、学習内容や難易度をもう少し高くしてもいいと感じるので、今後は全体と個別の課題設定をバランスよく設定していきたい。</p>
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

教科（英語科）
①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）
<p>授業の初めに目標を示したり、授業の見通しを伝えたりすることが、授業の目標の分かりやすさに繋がっていると考える。評価に関しては、プリントへの評価方法の記載や、ルーブリック評価でどのようなことを行えば評価に繋がるかなど、視覚的に評価方法を伝えることが高評価に繋がったと思う。</p>
②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）
<p>1学年では半分以上の評価がB評価であった。難易度については、現在中学校の復習を中心に行っているため、上位層の生徒は難易度が合っていないと感じているのではないかと。また、科目に関する考え方や知識技能の向上の実感の観点が全学年B評価であったため、基礎学力を身に付け、それらを活用する活動を通して、知識技能だけでなく、思考力・判断力・表現力を伸ばせる指導を行ってきたい。</p>
③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動
<p>1学年は基礎学力の底上げに力を入れる。「勉強の仕方が分からない」という生徒も多いため、勉強方法を丁寧に指導していく必要がある。また、3学年については入試レベルにも対応できる力の育成にも努める。また、インプットだけにとどまらず、積極的にアウトプットできるよう、ALTの活用を交えたり、ICTを効果的に活用したりしながら、授業づくりを行ってきたい。</p>

教科（家庭科）

①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）

- ・授業に関する項目は学年を通して評価が高かった。今後も生徒の様子を見ながら継続していきたい。

②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）

- ・分かりやすく発表したり、まとめたりすることができているという項目について、他の項目と比較して1，2学年で低くなっている。発表する機会をさらに作り、充実を図りたい。

③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

- ・1，2年生は合同での実施となっており、今後も変更する予定はない。
- ・3年生の専門科目では、実習を多めに取り入れ、外部とも連携しながら行っていく。

教科（情報・商業科）

①評価が高かった項目について（結果分析、あるいは今後も続けていきたい活動）

- ・全学年とも全体的に評価が高かった。
- ・今後も、実技実習を多く取り入れ実施していきたい。

②評価が低かった項目について（結果分析、あるいは今後改善するための活動）

- ・低い項目はないが、発表の機会をさらに充実させていきたい。

③その他に気付いた点や、今後行う予定の活動

- ・新しいPCになったことで、活用したいという意欲も高まっているようにも感じられる。
- ・発表を取り入れた言語活動の充実をさらに行っていきたい。